

旭川冬まつりと連携した、除雪イベント等 による観光振興について

—除雪のプロ・TEAM「ド・ボ・ク」屋さんの取り組み事例—

旭川開発建設部 旭川道路事務所 総務課 ○阿部 浩一
計画課 三浦 篤

観光立国の推進・インバウンド観光時代への視野に入れ、雪のない地域や外国からの観光客の方々にも、北国ならではの『雪』への取り組みの体験をしてもらうとともに、地域住民への除雪についてのご理解、土木従事者の担い手確保も目的に、約90万人が来場する「旭川冬まつり」のイベントの一部として実施した除雪のプロ・TEAM「ド・ボ・ク」屋さんの取り組み事例について紹介する。

キーワード：広報、観光

1. はじめに

1.1 背景と目的

旭川市は北海道のほぼ中央の上川盆地に位置する（図1参照）人口約35万人の中核都市であり、札幌市に次ぐ北海道第2の都市である。行動展示により一躍人気となった旭山動物園がある街であるが、夏の観光に比べ冬期観光入り込みは半分以下となる。

そのような中、管内の土木業界では、「社会インフラの整備や維持管理に対する理解を一般の方々にもっと深めて頂きたい」、「もっと幅広い人々にドボクの仕事の中身を知って頂きたい」との思いが高まっていたこともあり、この度TEAM「ド・ボ・ク」屋さんを結成し、旭川冬まつり会場でのイベントを計画した。

本稿では、観光立国の推進・インバウンド観光時代を視野に入れ、観光で旭川を訪れた雪のない地域や外国からの観光客の方々にも旭川冬まつりをとおり、北国ならではの『雪』を体験してもらったTEAM「ド・ボ・ク」屋さんの取り組み事例を紹介する。



図1 位置図

1.2 旭川市の観光

旭川市近郊には富良野市や美瑛町といった有名な観光地があり、観光拠点としても各方面へのアクセスがよいことから、近年は日本国内はもとより、ビジット・ジャパンの取り組み等により、海外からの観光客も増加しており、平成27年度の観光入込客数は553万人と増加していて、海外からは中国、台湾、香港等のアジア圏からの観光客が多い状況となっている。特に中国の春節時期の連休には多くの観光客が北海道を訪れている。

2. 旭川冬まつりへの参加

2.1 旭川冬まつり（2016）とは

旭川冬まつりは2月6日（土）から6日間開催され、お祭りの最大の特徴は大雪像の大きさで平成6年には世界最大の雪の建築物としてギネス公式記録を取得している。

そのほか巨大なすべり台や雪像制作体験など、さまざまな北国ならではの体験ができ、公式世界大会である「氷彫刻世界大会」も同時開催され、選手が腕前を競うなど冬を楽しむことができるイベントが盛り沢山のお祭りである。

2016年の来場者は約90万人であり（写真1）、そのうち当イベント（図2）は2月6日、7日の2日間みの開催であったが、2日間で約2千人もの来場者を記録した。



図2 イベントプログラム



写真3 除雪車両試乗会と撮影会



写真1 来場者状況

2.1.1 メインブースArea1

- 除雪車両展示会
- 運転席試乗会&撮影会

除雪車両展示及び運転席体験試乗&撮影会は大人から子供まで大変好評であった。特に撮影会では試乗している写真をその場でプリントし、お渡ししたので大変喜ばれた企画であった。写真の配布は900枚以上であった。

また、本ブースには日本語を含めた4カ国語のパネルを展示した効果もあり、外国人による試乗も多かった。(写真2、3)



写真2 除雪車両展示会

2.1.2 メインブースArea2

- 子供ミニバックホウ試乗会
- 北海道土木遺産「旭橋」DVD放映
- 「土木の仕事」DVD放映
- 転ばぬ先の知恵 in 旭川リーフレット配布
- 旭橋パーパークラフト

今回のイベントで一番人気だったのが子供ミニバックホウ試乗会であった。ミニバックホウは実際に機械を操作する「体験型」でもあり、開催期間中は常時順番待ちの列が生じていた(写真4)。

また、雪道に慣れていない地域や、海外からの観光客が多いこともあり、雪道の歩き方ガイドである「転ばぬ先の知恵 in 旭川」を日本語のほか、英語・繁体字・簡体字・韓国語版を準備し配布した(図3)。



写真4 子供ミニバックホウ



図3 転ばぬ先の知恵 in 旭川

2.1.3 メインブースArea3

○測量体験会

ここでは実際の測量で使用するトランシットを使って、会場である河川敷の対岸側に設置したターゲットの観察を行った。

「道端にいる『機械を覗いている人』が何をしているのか知ってもらいたい」との思いから企画した。予想よりも小さな子供たちの来場があり、設置していた機械の高さがどんどん低くなっていったのが印象的であった(写真5)。



写真5 測量体験会

2.1.4 デモブース

○ロータリ除雪車デモンストレーション

デモブースではロータリ除雪車や除雪ドーザでの除雪のほか、ロータリ除雪車で石狩川への投雪を行った(写真6)。これまで実施したことがないほどの豪快な「放雪」状況に、観客の皆さんからも大きな歓声があがっていた。

また、除雪ドーザへの操作指示の体験もあり、子供た

Kouichi Abe, Atsushi Miura

ちには人気の企画となった(写真7)。



写真6 ロータリ除雪車デモンストレーション



写真7 除雪ドーザへの操作指示

3. 成果報告

3.1 アンケート調査結果

イベント会場では来場者の方にアンケート調査に協力して頂いた。その結果から、今回と同様のイベントがあれば、また参加したいと思いますか?という設問に対し、当イベントに来られた方の約90%が「そう思う」と回答しており、来場者の高い関心を持つイベントとなったものと思われる(図4)。

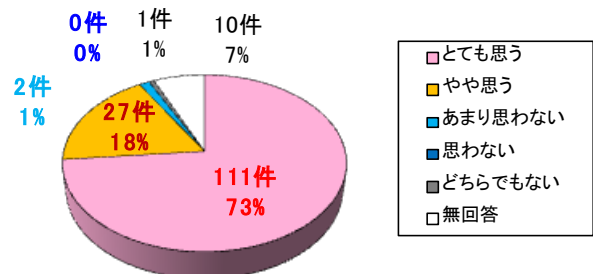


図4 アンケート調査結果

4. まとめ

当イベントは初の試みであったが、アンケート調査結果や来場者数から、大盛況のイベントであった。

今後に向けては、体験型のイベントが人気となった一方、待ち時間の長さや体験できる人数に制限があるなど、一部の方には不満を感じさせることもあったことから、多くの方に喜んでもらいつつ、満足度を上げることの難しさを実感した。

また、もう一つの目的である社会インフラの整備や維持管理に対する理解や建設業における担い手確保のため、「ドボク」の仕事を知って頂くことに繋がるものとなり、大変有意義であった。

今回の雪対策の取り組みにより、冬期の地域観光振興への貢献と、道路除雪への地域住民の理解等につながっていく事を期待するとともに、今後はより関心が得られるようさらに工夫を重ね、活動を続けていきたいと考えている。

以 上